



医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会の実現を目指して  
～市看護協会が参画する取組が文部科学省「共創の場形成支援プログラム」に採択～

◎公益財団法人川崎市産業振興財団が代表機関となり、同財団が運営するナノ医療イノベーションセンター(iCONM)を中核拠点として提案した「レジリエント健康長寿社会の実現を先導するグローバルエコシステム形成拠点」が、本年度の「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)共創分野・本格型」(文部科学省/JST)に採択されました。本提案の策定には市看護協会も協力し、引き続き同プログラムに参画して参ります。

◎看護の現場において理工学的なイノベーションを促進し、将来の「しなやかな医療・ケアシステム」構築を目指すプロジェクトです。

◎公益社団法人川崎市看護協会は、全国でただ一つの「市」レベルの看護協会であり、市内看護職はもとより市民の皆様にも身近にあることを強みに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現に向け、本プロジェクトの推進に積極的に協力いたします。

◎具体的には、看護の現場から療養者や看護職の声の収集、研究者と看護職との意見交換、研究成果を実証する場の提供、市民のケアリテラシーの向上や家庭の看護力発揮に関するツールの開発等への協力を行います。

※公益社団法人川崎市看護協会は、現在、国内で唯一、市町村レベルで法人格を取得して活動している看護協会。当時の市内看護職のリーダーたちの運動により、平成8年4月に設立された。平成24年4月公益法人取得。身近な看護協会として、看護の人材確保や質の向上のための研修等を開催するほか、プレパパプレママ教室、休日(夜間)急患診療所看護管理業務など市民の健康と安心を守るための事業を行っている。会員約3,580名 <https://www.kawa-kango.jp>

※ナノ医療イノベーションセンター(iCONM)は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が平成27年4月より運営を開始。最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設。 <https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

※共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)は、大学等が中心となって未来のあるべき社会像(拠点ビジョン)を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラムで、国立研究開発法人科学技術振興機構において令和2年度から公募を開始。国の重点戦略及び大学等や地域の独自性・強みに基づく産学官共創拠点の形成を推進し、国の成長と地方創生に貢献するとともに、大学等が主導する知識集約型社会への変革を促進する。 <https://www.jst.go.jp/pf/platform/>

(お問い合わせ先)

公益社団法人川崎市看護協会 堀田 電話:080-3315-8943